

## 1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

\*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段( )は在庫水準前期比(%) (自社所有分に限る。  
点線内は全鉄連による予想数字( )内は誤差率=予想値÷実績

令和2年2月末	令和2年5月末	令和2年8月見通し	令和2年11月見通し
－7千トン 〔 2280千トン〕 (99.6%)	－33千トン 〔 2247千トン〕 (98.6%)	－22千トン 〔 2225千トン〕 (97.9%)	－15千トン 〔 2210千トン〕 (99.3%)
2340千トン(97.4)	2269千トン(101.0)	*	*

## 2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和2年3月末	令和2年6月末	令和2年9月見通し	令和2年12月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は86,900円で前年比-3,400円、前期比-1,700円。需給にタイト感のない状況が続く中、新型コロナウイルス感染拡大の影響により更に環境が悪化した。全般的に低調な販売が続いていることに加え、市況が弱含んでいることから月を追うごとに採算が悪化する悪循環となった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は82,600円。前年比、前期比は愛知の市況条件を変更したため比較できない。もともと低調であった需要に加え、新型コロナの影響で更に販売は悪化し、在庫は過剰気味が続いた。流通は仕入を抑えているが、5月の販売量は過去に例をみないような最も悪い結果となり、6月以降も低調な販売が続いた。	土木関連は季節的要因によりやや低調ながら堅調に推移した。中小建築案件では景気悪化による計画の中止や延期などが見受けられ、大型物件と比べると減少幅が拡大傾向である。中小ファブでは一部で手空き業者も散見される。現在、動いているのは物流倉庫のみで、その他は全般的に低調、前年を大きく下回る商いが続いている。	土木関連は、回復する気配を多少感じられるが、中小建築案件では工事の遅れや計画の見直しも出ており、減少傾向が続くと思われる。物件の安値受注が増えてきており、我々鉄鋼二次流通の業績悪化に響いてくるだろう。スクラップ価格上昇に伴い、今後、価格は強含みと予想される。しかし、需要は低調のまま推移し秋需の期待感もなく全く先が見えない。

## 3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

8月の仕入量は145,770トン前月比-10.1%、前年同月比-9.2%、販売量は144,369トン前月比-13.5%、前年同月比-14.4%。仕入量、販売量ともに前月比著減、前年同月比では仕入量は減少、販売量は著減しました。在庫量は201,782トン前月比+0.7%、前年同月比-17.3%、在庫量は前月比微増、前年同月比は著減しました。在庫率は139.8ポイントと上昇しました。

土木物件の需要は堅調だが、我々鉄鋼二次流通の主要な需要である中小物件が減少傾向です。8月の需要はかなり落ち込んでおり、著しく販売量が減少しています。

## 4. 大阪の動向

(大阪) 堅調だった土木も止まってきた感じで、建築関係は7月-9月から減少傾向が出てきた。やはり中小物件の減少が大きい。例年の10月-12月は需要期であり、販売量も増えるのだが、今年度はコロナの影響もあり、中小物件が少なく若干は増加するものの、大きく販売量はのびないと思われる。コロナ禍の第2波、第3波懸念から、需要はジリジリ縮小へ。今年度の10月-12月期は厳しい状況が続くと予想される。